

東京都中学校技術・家庭科研究会が目指すもの

会長 佐藤 秀直
足立区立第七中学校長

平成29年度東京都中学校技術・家庭科研究会総会におきまして、ご承認をいただき昨年度に引き続き会長を務めさせていただきます。東京都の技術・家庭科教育の充実と発展のため精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度、東京都中学校技術・家庭科研究会は研究と体験的な教員向け実技研修に力を入れてきました。関東ブロック研究大会埼玉大会において、「生物育成」と「食生活と自立」の2領域について研究発表を行うとともに、夏季休業期間には技術分野・家庭分野の実技研修会を実施し、多くの技術・家庭科教員の参加があり各研究部の研究成果を還元できたのではないかと思います。また、実技の実践発表の一つともいえる「ものづくりフェア in TOKYO」の運営、公立学校美術展覧会への出品・展示と各部の担当を中心として精力的に活動してまいりました。

しかし、近年教育現場を取り巻く社会の変化のスピードは思った以上に早く、これからの高度化、システム化された技術に支えられた社会を生きる生徒たちには、一人一人がさまざまな経験を重ねながら個性や能力を伸ばし、それぞれの強みを生かしながら、ともに支え合っていくことが求められます。さらに、これからは学校で学んだことだけで解決できる時代ではなく、正解のない課題に対して最適と思われる解を導く力を身に付ける必要があります。そのために、技術・家庭科教育において何を教えることができるのかという課題意識を常に持ちながら指導内容の改善を推進するとともに、課題解決に向けて主体的に協働して学ぶ活動等を通して生徒の学習意欲を高めながら知識や技能を定着させていくことが大切であると考えます。また生徒が学んだ結果として何が身に付いたかを把握する評価についても改善を図っていく必要があります。本教科は、生徒の実態に即した問題解決的な題材設定や生徒自らが課題を見つけられる力を育ませることができる最適な教科であると考えます。新学習指導要領の答申・改訂が完了し、平成30年度から移行期間となるこの時期に、その趣旨を十分に踏まえたうえで、今後の3年間の履修内容や題材の配列を見通した指導計画の作成と内容の取扱いを設定し、平成33年度新学習指導要領全面实施に向けて準備をしていきたいと思います。これまで以上に本教科の目標に向けた学習内容の充実を図り、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立った授業改善を実施し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成を推進していきたいと思います。そのために本教科を担当する教員には、常に新しい指導方法を学んでいくことが求められているのです。

ところが、ここ数年は技術・家庭科専任教員が一年ごとに減少してきているために区市

町村単位で研修会を開催することが難しくなっており、出かけていくことだけでもたいへん厳しい状況にあります。このような時だからこそ東京都中学校技術・家庭科研究会が、多くの先生の授業づくりに役立つ研究を行い、それを広める努力をしなければならないと考えております。生徒たちに技術・家庭科の力を定着させる授業を追い求める熱意と、その研究成果を一人でも多くの仲間に伝え・広げていく熱い心を持ち続ける研究会でありたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。